

議事録（概要）

会議名	平成28年度 第3回芦屋町地域公共交通会議					
会場	芦屋町役場4階 第41会議室					
日時	平成29年1月23日 10:00～11:00					
委員の出欠	会長	鶴原 洋一	出	委員	中川原 達也	欠
	副会長	内田 晃	出	委員	吉村 道真	欠
	委員	柴田 敬三	出	委員	石川 智雄	出
	委員	緒方 和博	欠	委員	大庭 広文	欠
	委員	岩永 剛 (随行 山岡 裕明) (随行 山本 竜二)	出	委員	西 正博 (代理 河津 隆幸) (随行 中藪 裕蔵)	出
	委員	橋村 浩	出	委員	塚 裕之 (代理 古川 二郎)	出
	委員	貞包 健一	欠			
件名・議題	<p>1. 会長挨拶</p> <p>現在修正中の芦屋町地域公共交通網形成計画素案と国庫補助路線の事業評価について、より良いものになるよう委員の皆様方の助言や本会議での議論を行ってもらうようお願いがあった。</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 芦屋町地域公共交通確保維持改善事業評価について 事務局から説明を行い、委員から質疑・意見等があった。</p> <p>(2) 芦屋町地域公共交通網形成計画進捗状況について 事務局から説明を行い、委員から質疑・意見等があった。</p> <p>(3) その他 誰からも特に意見等はなかった。</p>					
合意事項 決定事項	●議事1「芦屋町地域公共交通確保維持改善事業評価」について事務局から説明を行い、承認された。					

質疑応答及び意見と説明内容

議事1 芦屋町地域公共交通確保維持改善事業評価について	
事務局	事業評価の概要を説明した。
委員	はまゆう団地周辺エリアで北九州市営バスの運行時期よりも芦屋タウンバスの運行便数が2便多く、かつ、北九州市営バスの乗り継ぐため30円の乗継割引券制度もあるのに、利用者が減少しているとのことだが、要因が何であるか掴んでいるのか。

事務局	正確に詳細まで掴んでいないが、山鹿5つの自治区で話した内容では、住民の生活の足は遠賀町方面ではなく、高須や折尾駅方面に向いており、特に買物では利用しないことから、そういった要因ではないかと考えている。
委員	乗継割引券の購入は少ないのか。
事務局	乗継割引券の購入は、ほとんどないのが実情である。
会長	要因を正確に掴むためには、利用者状況を把握することが必要だと考えるが、北九州市交通局はICカードがあるので、そういったデータを利用しているのか。
委員	ICカードでODデータを取ることができるので、それを活用している。
会長	芦屋タウンバスでもICカードを導入すると、利用者データをより良く把握することができると考えられるが、効果はどのようなものか。
委員	電子データは全てが網羅できるものではなく、不確定要素があるもの。その中で単純に利用者の増減はわかりやすいが、それ以外の要因は乗り込み調査などが必要になる。電子データで把握できることは良いことでもあるが、その代わり費用が相当高いため、データ把握のためだけの効果としては考える必要があるのではないか。
会長	利用者が少ない「はまゆう団地周辺エリア」の今後について、委員の皆様方から継続か縮小もしくは廃止、拡大などの様々な意見を伺いたい。
委員	廃止や縮小は悪循環になるため難しいのではないか。はまゆう団地周辺エリアの移動目的が高須、折尾方面ならば、町が国庫補助金を受けず、単独費用でその方面のバスを運行することも良いのではないか。負担は増えるかもしれないが、利用者も増えると思われる。
会長	町が独自に運行すると、その路線沿いは北九州市営バス路線上なので、お互いの協議が必要ではないかと考える。
委員	路線図を見ると、町内巡回バスと芦屋タウンバスが重複しているので、その関係で利用者が少ないのではないのか。
事務局	路線のほとんどは重複しているので、その要因も推測上では考えられる。
委員	ほとんどのバス停はバス停表示板だけしかなかったり、乗り継ぎに要する時間もかかたりと、乗り継ぎ環境が悪いから利用者が少ないのではないか。
事務局	乗り継ぎのバス停には、上屋やベンチが設置されているものの、風が凌げるような3面での上屋ではない。乗り継ぎ時間も以前の20分強から15分以内に改善し、5分以内で乗り継ぐことができる便も設定している。ただ、降りたバス停と乗るバス停は道路の対面側にあり、道路を渡るのが、乗り継ぎを困難にさせている要因にもなっている。乗り継ぎの環境を良くすることも必要だと考える。
委員	町内巡回バスの利用者数は近年、どのような状況なのか。

事務局	ほぼ、横ばいではあるが、どちらかと言うと減少傾向にある。
委員	減少傾向ならば、北九州市営バス利用者が、巡回バスを利用しているとは考え辛いのではないか。単純に利用できる町民そのものが減少しているからではないか。
会長	そのような要因もあると考えられるし、バス停の環境整備なども考えられるため、事務局として内容の把握に努めてもらいたい。
委員	事業評価内の今後の課題に記載されている内容について、利用者を促進するという記述と現状を維持するという記述とで矛盾が生じているので、どちらかに統一すべきではないか。
事務局	利用者を促進するという記述に統一するよう修正したい。
議事2 芦屋町地域公共交通網形成計画進捗状況について	
事務局	網計画に関するアンケート調査票の内容や、網計画の修正点、今後のスケジュールについて説明した。
委員	回収率が低いので、督促状などの対策をする予定なのか。
事務局	各自治区長に再度お願いして、回答を呼びかけてもらうよう依頼したい。
委員	非利用者にもアンケート回答ができるようになっているので、非利用者がどうしたら利用するのかなどが分析できれば良いものになる。他自治体を参考にとすると、回収率は50%ぐらいが平均なので、回収率を上げる努力をお願いしたい。
会長	他自治体は抽出方式ではあるが、今回の実施内容は全世帯に配布したものであるため、色々な方から多くの意見を集約できているものと考えられる。 【他自治体の多くは2,000～3,000の世帯を無作為に抽出しアンケート調査をしている。正確な意見を集約するため回収率は40～50%となっているものの、全世帯に対する回収率は、5%前後に留まっているのが現状である。一方、芦屋町では、より多くの方から正確な意見を集約するため、全世帯に対するアンケート調査を実施し、全世帯に対する回収率の目標を30%としている。】
委員	前段で「はまゆう団地周辺エリア」の利用者が少ないとのことだったので、その地域の方をピンポイントで聞いてほしい。督促状には経費はかかるが、回収率は5%程度あがることも実証されている。ただし、費用がかかるので、督促状でなくても、例えば防災無線などを利用して、回答の呼びかけを行ってほしい。
委員	無線放送が独自にある区もあるので、早急に各区長に回答の呼びかけを行いたい。
会長	回収率が上がる方法を前向きに検討してほしい。

委員	<p>芦屋町地域公共交通網形成計画にアンケート結果を入れることも重要であるが、芦屋町の特徴の1つは、無償バスの重複化だと考えられる。無償バスの重複化はコストがかかりすぎて、競合同士ではお互いがダメージを受けるので、課題としてしっかり整理してほしい。県内の自治体では無償のバスが有償化になる傾向である。現在の交通を維持するには無償は難しい。その辺りも計画内に記載されると良いのではないか。</p>
会長	<p>病院移転の際には、北九州市営バスと芦屋タウンバスが今以上に重複することになるので、事務局には北九州市交通局と入念に協議をお願いしたい。</p>
委員	<p>北九州市交通局として協議できる体制にしているので遠慮なくお越してください。</p>